

◇ 目須田 修

○議長（清水満） 傍聴者の皆さん、おいでいただきましてありがとうございます。

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

発言順位4番、議席番号4番、目須田修議員を指名します。目須田修議員。

なお、目須田議員より演台における資料等の提示許可願いがありました。

これを許可しましたので報告いたします。

〔4番 目須田修 登壇〕

○4番（目須田修） 議席番号4番、目須田修です。町民の一番の心配事のうち、3つ質問をしたいと思います。

まず、明日の飯綱町は元気なのか、そのまちづくりの具体策は進んでいるのか、ビジョンについてお伺いします。

新聞のニュースを見て、転入増と転出減で赤塩地区に子供50名の増加を図るという町長の言葉、これを見た人からすご腕ですねと、企画力、プロデュース力のある町長ですねと、非常に誇りに思ったものです。後に町長は、これはあくまでも希望であったと答弁しています。そこで質問します。今も町内の人口増加を望んでいますか。そうであるならば、その具体策をご提示ください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答え申し上げます。今回は非常に多い質問をいただいておりますので、なるべく端的に申し上げます。

人口増は今も強く願っております。そのための具体策としては、まず教育、福祉、医療等々の子育て支援対策の充実を今まで進めてきましたが、思うように人口増につながってこないという現実が出てきております。

よく中身を分析しましたところ、若い人たちが結婚した場合に、ひとまず長野市等へ住所を

移すというのが非常に多く見られております。そんなことから、この飯綱町に若い世帯が住めるような住宅地を少し整備していきたいということから、現在、東黒川地域、また福井団地地域にも民間で少し住宅をやりたいというお話も伺ってございますし、あと農家を目指す人たちのための住宅を3棟建設し、既に入居したり、入居者が決まったりしてきておりますけれども、赤塩地区、また倉井地区等々にも適地を見つけて、若者が住めるような住宅を建設していくことも、これから少し積極的に進めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の答弁の中で、若者がひとまず長野へ移転するというお話を伺いました。戻っている気配があるのかどうかという意味でも、他にも転出理由があるのではないかと思いますけれども、調査を実施されたかどうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 窓口での実際の転出理由の調査というのは、非常に難しい一面がございます。どういう理由で町を離れるのでしょうかということを質問することは、できないと私は解釈しております。一定のアンケート調査等にご協力していただける人ということが前提にはなりますけれども、こういった理由で転出をしていくのか、就学、進学、結婚、就職等々の理由が上がってくると思っておりますが、ともかく20代、30代の若い年齢層の人が転出増ということとは数字的に間違いございません。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 私は議会政策サポーターの研究テーマとして、20年後の我が町を考え、今何をすべきかを提案しています。人口増加メインの政策ではなく、20年後を見据えて6,000人の町構想をスタートさせる時期と考えますがどうですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） それは議員の1つの考え方だと思います。どういう意味で6,000人という

単位を想定されたのか、その辺の中身は承知できませんけれど、私が考えとして申し上げているのは、人が減ればそれだけ収入が減ってくるということをよく申し上げてございます。

特に私どものような自治体は、税金というよりも地方交付税に頼っている財政運営でございます。その地方交付税の現在の交付額から割り返しますと、1人当たりの交付される金額は、年間26、7万から30万の間の金額が1人当たりに対して交付されるということになりまして、単純な計算でございますけれども、今、例えば1万2,000人だとして6,000人になれば、半分の交付税が予定をされ、それによる財政運営と行政サービスを考えるということになります。よく例に出すわけですが、除雪に5回行っていたところを3回にさせていただくか、バスが3度回っていたところは1回にさせていただくか、医療費の支援は3割負担していたものを5割負担にさせていただくようにするのか、そこら辺は国との制度の絡みもございまして、私は一番、財政運営とサービスの維持というのが大きな課題になってくるだろうと思っています。

その意味で、6,000人で今の体制のまちづくりを備えていくということになれば、どれをどのように切り詰めて、どういうことを地元の人をお願いして、どういうことを行政がやるというところまで突っ込んだ話し合いをして、20年後の将来計画を作っていないと、なかなか住民の同意を得た町の運営ができなくなっていくのではないかと。

日本はどこに住んでいても同じです。長野市に住めば税金が高いわけではないです。所得によって税金は決まってくるので、そこまで行政サービスが落ちるのなら、私は長野に引っ越しの方が良いという方も恐らく出てこられるのではないかと思います。この町の良さを維持し、この町の行政サービスを維持していける程度の人口の維持、規模というものをどこに設定していくかというのは、私はこれから大きな課題だと思っています。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今は議会が政策サポーターを仕切る形になっています。予算と許認可の権限を持った行政サイドが積極的にリードすることで、綿密な計画と実施が可能になると考えます。行政がリードし、政策モニターを立ち上げる考えはありますか。ご回答ください。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今の政策サポーターという制度をスタートさせて、議会が活動されているということについては、私は大きく敬意を表するとともに評価を申し上げさせていただいております。

確かにおっしゃるとおり、私どもは行政の予算を立てる、また執行する権利を持っている。この行政でそのような政策モニター的な皆さんを組織して、意見を吸い上げてどんどんやっていくことも確かに非常に話は早くてストレートのように思いますけれども、私は決してノーだと言っているわけではなくて、私どもは区長・組長会をはじめ、各種委員会、それぞれの意見を聞く機会というものを私ども行政側としても持っています。そのサイドでものを聞くと、議会で今運営されている政策サポーターの良い意味で自由な発想で、いろいろな意見の言いやすい状況の中で意見を吸い上げてくるという存在、在り方というのも決して劣るものではない。そういう意味では、私は是非、議会は議会として続けていっていただく十分な価値があると思っています。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今、町長にご回答いただいたわけですが、私のはっきり違いを述べなかったのがいけなかったと思いますが、議会がやっているのは政策サポーターです。私がお提案しているのは、行政で政策モニターはどうでしょうかと申し上げています。その違いは、内容等を細かく詰めなければいけません、そのことだけ確認しておきます。それでは次にいきます。

昨今、水道法の改変が進んでいます。町長はコンパクトシティを考えていらっしゃいますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 国交省が中心になってコンパクトシティというものについて、大きく取り組んだらどうかという提案がかなり前からございました。我が町でもコンパクトシティについて検討し、議会でも大変いろいろなご質問をいただいた覚えがございます。

富山市の路面電車等々を集約させたのも1つのコンパクトシティの在り方ですし、小諸市が

今進めている中心に市役所、病院、いわゆる行政機関等々を集約させているコンパクトシティもでございます。

飯綱町もコンパクトシティに決して取り組まないというよりも、取り組まざるを得ないわけですが、注意しなければならないことは、みんな町の真ん中に集めて赤塩はどうする、芋川どうする、平出の外れはどうする、上村はどうするという状況を私は起こしたくない。良い意味でコンパクトに必要なものがまとまっている代わりに、そのような地域に対してきちんときめ細かな公共交通の足のサービスが行き届いているとか、除雪もしっかりと行っているとか、やはりその地域に生きていることや生活していることが、その人にとっては一番素晴らしい、自分の生きがいもある場所だというものも併せ持った、ずるいですけれども併せ持ったコンパクトシティというのはどうあるべきかというふうに考えていくのが、私はこれからのコンパクトシティの捉え方だと思っています。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今のその地域に住んでというお話ですが、コンパクトシティの第一歩として、独り住まいの人に町はより安心な季節転居生活の提供を提案します。除雪、水道管の保全、買出し、ごみ出し、洗濯、炊事、食事、入浴、掃除等々、安心で安全で便利な生活を提供する行政サービスが必要と考えますがどうでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） それも1つのコンパクトシティと言いますか、今後の高齢社会における対応策の1つとっております。

既に、合併する前の鬼無里村、戸隠村、また小川村等々では、冬場だけ村の中心地にお年寄りの皆さんに引っ越してきてもらって、そして春になるとまた元へ戻るという生活スタイルを実施した時がございました。私も実際に見に行きました。

ここで一番大事なのは、やはり人間、人だということでございます。中心に集まって、おっしゃるとおりの便利さというのは相当ございますが、反面、気軽にお茶を飲み歩いたり、一日

中いろいろな話をしたり、孫や東京へ出た子供などが正月だけは帰ってきて、家の中をうるさいくらいに飛び回ったりとか、そういうようなことをどうやって確保してあげるかということが裏腹にセットされていないと、6畳とお勝手、トイレとお風呂がきちんとある部屋を用意したのだから、そこで一冬楽々やってもらえば良い、何の不服あるのかというスタンスだとやはり私はなかなか受け入れていただけないのではないかと思います。そこに人の気持ちの通うようなものと、今、議員のおっしゃったような取組というものも併せ行うことが必要だろうと思っております。

正しく今みたいなお話で、自分がいた昔の大きな家は若い夫婦に貸し出して、そしてお年寄りになった自分たちは駅前の便利なところに、例えば引っ越してきて、そのアパート代は自分の昔の家を貸してある家賃収入を充当してやれば良いだろうと、絵に描いたようなお話ですけれども、場合によればそういう取組で何とか生活を維持していく夫婦もあったり、また違うケースもあったりと思っておりますが、ただ行政側とすれば、全部の人が駅前の方に引っ越してきてくれるわけではないですから、結局、除雪は除雪に行かなければならないということで、計算したとおりの経費の節減というのは、なかなか難しい点もあろうかと思いますけれども、議員のおっしゃるのは1つの提案だというふうに思います。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の私の提案と質問について、町長から案を出していただいて非常にありがたいわけですが、1つだけ確認しておきます。

私は、引っ越す、移転することを勧めるのではなくて、例えば今の話、季節的に雪のシーズンだけ移転していただき、また春になったら戻るということをされたらどうかといった提案です。

それからもう1つ、町長のイメージされている提供する家が少しずれています。1つの家でキッチンもバスルームも揃っているという考え方をされていますが、少し違ってまして、あくまでもモデルで言えば阪神大震災の後の皆さんの共同生活、つまり各自の部屋は確保しつつシェアできる場所、例えばシャワールームや洗濯場所、皆さんでお話できるラウンジなど、

そういうものは共有という設計を考えられたら良いかと思っております。次にいきます。

もう1つ行政サービスについて、今度は副町長にお伺いします。住民が役場に訪れて働く職員を見ての感想ですが、仕事をしているのか分からない。パソコンを開いてはいるが見えないです。

そこで、副町長は職員が今どんな仕事をどの程度のスピードで行っているのか、お分かりなのか質問します。RPAの導入を検討されたことはありますか。

○議長（清水満） 合津副町長。

〔副町長 合津俊雄 登壇〕

○副町長（合津俊雄） お答えします。最初のご質問の職員の執務状況については、つぶさに承知は不可能と考えております。各課長との面談を通じまして、各職員の働きぶりについてはお話を伺っているところです。なお、RPAについては、私は承知しておりません。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今後、検討を望みたいところです。ロボティック・プロセス・オートメーション。つまり、組立てロボットがハードなロボットであると呼ぶならば、パソコン業務の一部を代行するソフトロボットと考えていただければ良いと思います。かなり、日本全国でも導入されているところが増えてきて、そして一般的な職員のパソコン業務をこなしてくれるということで、24時間365日稼働が可能なのです。そして、人為的ミスが無くなるということで、正確性が担保されるということです。そして、データですが、職員がこの部分に関しての仕事1か月分を2日で行ってしまうということなので、そうすることによってそれ以外の時間を本来の住民サービスに回せるわけです。

職員の方たちは、町に出て自分の目と耳と足で住民との接触を試みて、そして福祉サービスや高齢者へのサービスができるということで、つまり要望を持って帰って来るといふ本来の住民が望む行政サービスができるということだそうですので、是非、ご検討願いたいと思います。

それでは2つ目にいきます。北しなの鉄道とリンクする県立北部高校の存続についてお伺いします。北部高校を存続させるには、地元民と行政が本気になって手当をすることが、県に対

して存続を望む強い力になると考えます。北部高校が存続するか否かは、北しなの鉄道存続に大きく影響します。農業科を復活、第二小学校の教室は都会からの生徒の宿舎に、また農場も実施場として提供するなど、あらゆる支援策を考え県に提示する必要があると考えます。そこで北部高校の存続をどのように考えていますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 地元の高校の存続という問題については何人かの議員さんからもご質問を受けている、私は注目すべき1つと承知をしております。

今、しなの鉄道というお話もございましたけれど、しなの鉄道の存続のために北部高校が必要という、私はそのようなとぼけた発想はございませんけれども、本当に今の高校の存続をどうするかという問題については、一時は県立高校ですから県で考えていただければというのが、だいたい地方の自治体の通り相場でございました。しかし、今は高校と一緒に、県と一緒に、この地域の中の北部高校は一体どういう存在で、どういう高校として育ててほしいのか。なおかつ地域で言わせてもらえば、飯綱町、信濃町の発展においても、どんな連携を高校が担っているのかというくらいに、真剣に高校の存続について一緒になって県、高校と考えていかなければならないと強い認識を持って対応しているつもりでございます。

現在の白鳥校長先生は非常にいろいろなアイデアを持っておられて、全国に子供たちを募集するというのも1つでありますし、今おっしゃった農業というものについて注目をしていくことも大事だろうと思っています。しかし、新しく農業科をここで起こしたらということについては、やはり時間といろいろなものを要すると思いますけれども、地域学習や農業の実習、研修してきたものが単位の取得につながり、なおかつ農業を目指すのであれば六大学の某大学へ進学する道も開いているとか、県立大学への枠を確保していくとか、いろいろな意味の特色付けをして、地元の子供も是非、北部高校へ行ってこういう道で進学をしていきたいという高校になるよう、本当に一生懸命取り組みたいと思っていますので、いろいろなご指導をいただきたいと思っています。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 3つ目、小学校再統合による跡利用計画と庁舎計画の再検討、勝手にネーミングしていますが、町長から再統合するという話をまだいただいておりませんが、こういうテーマで質問したいと思います。

町長は、現在の2校にする時点で、理由の1つに複数クラスによる教育環境構築のために統合と答えております。あくまでも理由の1つです。そこで、皆さんにお手元にお配りさせてもらった資料をご覧ください。これは転入、転出もありますので若干の凸凹はありますが、数字を見ていただくと、参考資料として確実に少子化に向かっているということだけ、お分かりいただければと思います。

それで、このまま進むと間違いなく2校での複数クラスは無理がくると思います。そうなっても町長は複数クラスでいくと答えるのかどうか1つ。早く手を打っておくことが賢明かと思えますがどうでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） いろいろ資料をありがとうございました。正しく議員からお話があった現状のままの出生数等々で推移しますと、極めて複数クラスでの学年の維持というのが難しくなっているのは間違いございません。しかしながら、学校4校を2校にするという時の1つの大きな目標は、クラス替えができるような学校を何とか維持したいということがございました。

私はもう1つ、今回、学校の統合を経験しましたが、どの学校も明治の6年など、140年、144年、145年の歴史を持つそれぞれの学校でございました。したがって、私はやはり牟礼という名前の学校、三水という名前の付いた学校、これは最初の段階としては何とかこれを守るよう維持して学校を2校で残したいと思いました。特に三水地区においては、三水村大字三水という場所がございません。したがって、前にも申し上げたわけですが、三水小学校という言葉が無くなり、さみずっ子保育園という言葉が無くなってくると、三水という名前が一切聞こえ

てこなくなります。そんな意味でも、大きな特色のある両校というものの存在を何とか延ばしていくことが、いづなっ子らしい、飯綱の町の子供らしい、子供の基礎的な小学校時代を過ごすには、やはり相応しいという思いもございまして、学校の名前を付ける時にも「何とか丘小学校」などはやめようという思いでございました。

そのようなことから厳しいわけですが、そのためにあとは転入に依存をしていくしか仕方がないということですが、長野市等々へ転出しやすい場所にいることも間違いないわけですが、逆に考えると転入をしていただきたい状況の飯綱町でございます。教育長もいらっしゃいますけれども、教育の飯綱町を売りにして、子供たちが転入をしてくるという教育づくり、飯綱教育を展開するのと併せて住宅行政、福祉行政等々により、何とか一学年70人台ぐらいの維持を図って、2校というものを維持していきたいと思っています。やむを得ずどうしようもない時は、学年によっては1クラスになるところも出てくるだろうと思います。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の答弁で町長の願いとロマンはよく分かりました。しかし、町長の立場上、もう少し現実的に大英断を下す時期が来ると思いますので、よろしく願いいたします。

その場合、再び跡利用を考えておく必要がある。住民の中からそこを庁舎にという意見も聞きます。この意見は、40才代から80才代までの方々からの意見で、数名などという少数意見ではありません。もちろん女性も含まれており、また元議員や現議員からも同感という強い意見ももらっています。多様化する住民ニーズに対応する拠点、災害に強く、子育て、高齢者、障がい者支援などの幅広い機能を有する場として、現在地より高台で広い土地、しかも避難場所が本部という理想的な環境になると思います。会議室、ラウンジ、図書館、ギャラリー、食堂併設等の利用も可能となります。現在地での新庁舎計画の見直しを要望し、回答を求めます。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） かなり多くの人から議員に要望があるという報告をお聞きしましたけれども、正直言いまして当面は学校を1つにしていく予定はございませんし、既に庁舎建設におい

ては場所も決め、予算措置もでき、そしてその大きな財源としている合併特例債等々の期限もございます。今この時点で、庁舎建設をもう1回白紙に戻して、学校の跡地利用等々に向けていくという考えはございません。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の答弁の中で、もう一度白紙に戻してというふうに答弁されました。私も議会は、全協も含めて町長の口からは一度白紙に戻す、住民の声を聞く、ここまでしか伺っておりません。もう一度というのはどんなニュアンスなのでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） そういう意味でのもう一度と言いますか、もう一度が2回あったというわけではなくて、この場所で旧館等も含めた当初のL字型に増築をしていくような庁舎建設から、新しく少し離れた場所と言いますか、併設はするけれども一緒になっている建物ではないという建物でこの場所にやろうと、その時点で1回白紙に戻してやり直したもので、それでもう一度と申し上げました。それをそのまま進めさせていただきたいということで、それをまたやめて新たなことを考えるという予定は今のところないと申し上げました。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） それでは、大きな項目の日本一女性が住みたくなる町の内容と具体策について質問させていただきます。

1、教育環境、ここに書いてある通告したとおりに質問していきますので端的にお願いいたします。家庭での子供とのコミュニケーションの確保の具体策。

次、町独自に教員を確保し、きめ細かな学習指導により生徒の個性と能力を伸ばす教育の推進、この財源は。

地域の人々に体験学習の支援のシステムの構築、地域密着型の教育推進のモデルはあるのか。リードする人材は。そのモデルを選んだ理由は。どのようにして情報を入手したのか。視察はしましたか。ここまでお願いいたします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。まず1つ目の家庭での子供とのコミュニケーションの確保でございます。総合計画の中にもございますけれども、こちらにつきましては個人、家庭でもお考えをいただく問題でもございますが、町として、教育委員会として行っている具体策としましては、ノーメディアデーの実施。これは平成28年度から行ってございます。あと家庭と学校との結び付き。それから家庭教育学級。これは親子での参加ですので、ご家庭に帰られて、またご家庭でコミュニケーションのきっかけ作りをしていただければと考えてございます。また、手作りお弁当の日も実施してございまして、こちらにつきましてもご家庭の中でコミュニケーションをとれる場と考えてございます。

それから2点目の町独自の教員の関係でございます。財源につきましては、特に国や県の補助がございませんので、町費で行っておりまして一般財源でございます。

それから3点目の地域の人々に体験学習のシステムでございます。これにつきましては、本年4月にスタートしました飯綱町コミュニティスクールがございまして、これは、学校と地域がこんな子供を育てたいという願いから、地域と学校が一体となって子供を育てるという仕組みでございます。もっと言えば、子供たちの体験学習に地域の方々が先生となっていただいて、子供たちを育てる、地域密着型の教育というふうに考えてございます。まだ本年度から始まったばかりでございますので、今後これをまた活用しながら、スケールアップ等々していきたいと思っております。人材につきましては、町内の女性の方を講師としまして、学校教育の地域学習ということで行っております。以上3点、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の回答で不足しております。モデルはあるのかという質問にお答えください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） モデルにつきましては、県で行っております信州型コミュニティスクールがございますので、それをモデルにしまして町版のコミュニティスクールを作ってください。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 誰もが生き生きと生活できる環境づくりを推進、具体策をお聞かせください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答えします。こちらにつきましては、健康づくり、生きがいくりの講座、あるいは世代間の交流などを通して、誰もが生き生きと生活できる環境づくりを推進するとなっております。具体策としましては、生涯学習係で行っております、いづな大学、いづな教室、これらを開催することによりまして、それぞれの方の生きがいくりの講座や生涯学習の場としての環境整備を行っている状況でございます。

また、いづなっ子クラブも開催しております。こちらにつきましては、クラブの講師を町内の方をお願いするなどして、世代間の交流、子供と先生になる方がお年を召した方であれば、世代間の交流等々を通じて生きがいくりを行っているということでございます。

また、大きなところですと町民運動会。これは区を挙げての運動会となりますので、子供さんからお年寄りの方まで世代を超えての交流ということで考えております。

また、健康づくりにつきましても、各種のスポーツ教室等々を通じて交流をしているということで実施をしております。以上です。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 次、男性の家庭生活への参画を促すの具体策のモデル。視察はされたのか。誰がどのように指導するのか。これをお答えください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。まず、視察でございますけれども、視察は特にしてございません。ただ、この男性の家庭生活の参画ということでございますが、なかなか子育て世帯におきましては、育児中の女性が就労や起業をする場合、特に男性の理解が必要だということは承知してございます。その関係で、町として始めたこととしましては、御存じのとおりワークセンターを開設しまして、女性の方の働く支援、あるいはそこで男性の方にも興味を持っていただく、男性の方にも女性の就労等に対する理解を得ていただくこと。それと、親子ふれあい教室等々を通じまして、イクメンパパの関係の事業を行いまして、男性の家庭生活への参画を促すというようなこと。また、去年から始めましたiママフェスタにつきましては、大変多くの方にお越しいただきまして、それを見ながら男性の方も参画をしていただくようなことを促していきたいと考えております。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 行政が率先して模範となるとあります。「これはお母さんの仕事でしょ」、この考えを変える時なのですが、これを実施した実態とノウハウを町民に知らしめる認知方法を回答ください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 行政が率先して模範となるということでございますが、例えば役場の中でございましたら、総務課が中心となりまして特定行動事業主行動計画、いわゆる女性と男性の関係の計画を立ててございますけれども、それで仕事と家庭生活の両立ができるような職場を目指すということでございます。

町としてでございますが、教育委員会の中では男女共同参画の委員会がございます。これによりまして、委員さんが区に入って、なかなか男女共同参画が進んではいない状況でございますけれども、何とか男性の方も女性の方も理解をいただいて、同じ社会を作り上げていこうということで今年度から始めてはおります。男女共同参画につきましては数年前からございますが、なかなか進んでいないというのが実態でございますが、今年度から本腰を入れながら進め

てまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 今の回答を確認します。男女共同参画で実施されたことを講演や広報などで告知されるのが1つ。

それから、率先して模範となるということで、現在、既に共同参画を呼び掛けておりますが、率先して模範となるという行為の方法があるならば回答ください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。男女共同参画の講演等々の関係でございますけれども、11月にも男女共同参画のフォーラムがございました。その中でお母さんの就業の発表がお二人ございました。これは、全県下から300人近くがお集まりいただいて町民会館で行われたわけですが、広報につきましては新聞、チラシ等で広報をさせていただきました。町内の皆さんにもお集まりいただき、盛大にできたというところでございます。

また、行政が率先してということでございますけれども、先ほど申し上げましたが、町の職員につきましては計画ができておりまして、職員から率先して模範となるようにということで周知をしている状況でございます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 2番目の子育てと就労について、保育料の軽減措置、一人親家庭への家賃補助に取り組む、現在実施中の支援の他に支援は考えていますか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。現在、おっしゃるとおり保育料の軽減措置、一人親家庭への家賃補助ということで財政負担を現在しております。

今後につきましては、この後どのような経済的負担が出てくるのかということも鑑みますけれども、それよりも今、子育て中のお母さん方には精神的な負担がございます。例えば、産後

うつという言葉が出てきているように、産後にうつ状態になることもございます。そのようなことも考えながら、産後ケアを今年の10月から始めたり、産婦健診も10月から始めたり、あるいは今はスマホ時代でございますので、アプリを導入しまして予防接種のスケジュール管理等もやってございます。

今後、子育て支援センターを建設するに当たりまして、出産や子育ての相談体制を強化してまいりたいと思っております。また、県立大学と連携をして、子育ての関係で何かできないかということで今年度から始めてまいりますので、そこら辺も考えていきたいと思っております。以上です。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 就職に有利な資格や知識、能力を身に付けられる研修会の開催などありますが、具体的に研修会の予定があれば教えていただきたい。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。ワークセンター事業を始めまして、そちらでの研修を行ってございます。

こちらにつきましては、月1回から2回セミナーを開催しておりまして、多い時ですと週1回開催してございますけれども、ワークセンターで研修を始めております。今後につきましても、1月、2月、3月に予定をしております。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 3番目、健康と医療についてお伺いします。地域包括支援センターを拠点とし、介護や医療等の関係機関との連携強化を図り、高齢者の生活全般に関するあらゆる相談にワンストップで対応できる体制を構築する、この連携強化はどのようにされているか回答ください。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 答弁いたします。新庁舎建設計画の中において、ワンストップでサービスが行えるよう、来ていただいた方が同じ窓口で対応できるような体制を考えております。また、職員のスキルアップも考えておりまして、同じ担当者が他者の知識を習得し、応対できるようなスキルの向上を考えております。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 提案と質問です。女性のための総合医療日を特別に設けるという提案です。女医の派遣を要請し、手配し、女性の要望に応えるため、毎週平日と休日の2日を女性の医療サービスに充てることを提案しますがどうでしょうか。

○議長（清水満） 大川病院事務長。

〔病院事務長 大川和彦 登壇〕

○病院事務長（大川和彦） お答え申し上げます。ご質問の内容で医療サービスの内容が少し不明な点がありますので、今の当院の現状に照らして女性がかかりやすい、女性の要望に応えるためということであれば、その内容をお聞かせいただきたいと思っております。

現状で飯綱病院に女性の方が受診しづらいというお話は聞こえてきておりませんので、少し回答が難しいわけですが、当院に無い診療科の先生をお呼びして、女性が住みやすくなる町の1つとして取り組むということであれば、今後検討の余地はあるかと思いますが、なかなか当院に無い診療科の先生をお呼びする手だてが難しいということと、そういう先生をお呼びしたとしても継続性がないので、引き続き当院で面倒を見ていけるかという、そういう利点も無いということにもなります。目須田議員がおっしゃっている医療サービスは治療に関してのことであるのか、例えば健診のことであるのか、それによっても少し回答の内容が異なっております。

当院の現状を申し上げますと、平成29年度の医療保険を使われた受診者の内容でございますが、外来患者につきましては男性が全体の42.8パーセント、女性は57.2パーセントです。入院患者につきましては男性が33.8パーセント、66.2パーセントが女性でございますので、今、女性が受診しづらいという環境にあるとは当院としては考えておりません。

ただ、町内には飯綱病院だけではなく他の開業医の先生もいらっしゃいますので、そういうことを含めた中でのお話であるとするれば、またその辺のお話を聞かせていただいた中で検討させていただく余地はあろうかと思えます。

○議長（清水満） 目須田議員。

○4番（目須田修） 女性に対する医療サービスというのは、女性が住みたくなる町の要因でもあります。また機会がありましたら質問させていただきます。

次、商工業の質問に移らせてもらいます。2番目に融資のあっせん等により企業の経営安定化、基盤強化を図るとあります。これは具体的にいつぐらいから、何社程度、融資の総額、具体的にあればご回答ください。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） お答えいたします。商工業の振興資金の融資事業、融資状況について説明させていただきますと、直近の平成29年度の融資状況でございますが、設備資金で5件、融資額が約1,400万円。運転資金につきましては33件、融資額が約1億4,000万円という状況になっています。

融資額の推移の傾向につきましては、ほぼ横ばいの状況が続いております。ここ10年の平均値と比較いたしますと、平成29年度の融資事業は、設備資金については平年より下回っておりまして、運転資金については平年より上回っている状況でございます。以上でございます。

○議長（清水満） 目須田議員、残り3分少々です。

○4番（目須田修） 承知しました。まとめに入ります。

町長に質問します。女性が住みたくなる町、素晴らしいスローガンです。しかも、そのような町は日本一どころか、2位や3位が存在するのか疑問です。女性がどんどん流入しているという町はどこにも無いと思います。目標は高くは良いと思います。ただ、掛け離れ過ぎていては実現が困難です。しかし、実現できる何かヒントがあるはずです。たくさんの情報といろいろなメディア、多様な価値観により、経済面だけでない女性の自立は必然の勢いです。女性は

男性に付いてくるものという考えを変え、共に支え合い、共に歩くパートナーとして、まずは男性の意識を変えること、非常に困難なことでしょう。

そこで、人間らしさを求める人々が生活できる町に言い換えて、それを実現するためには今までの観念に捉われずに相手を理解し、それぞれが助け合い、支える人の心を大切にし、競争のための戦いやストレスやジェラシーからの憎しみやいじめもなく、常に相手を思う心があれば、相手が、女性が何を望んでいるかが多少でも理解でき、実現に近づけると思います。

経済至上主義や物欲を超え、より自然と関わり、1000年の森づくりにより、土と水を守り、放射能や騒音から逃れ、防腐剤漬けの食材を子供たちに与えずにすむ生活のできる町、可能ならカジカの住める川のある町、本来の人間らしさを求める人が住める町を追求する。

日本の中央に位置する長野県の北部にあつて、自然に恵まれ、四季ごとに魅力ある地、相手を思いやり、自然と共に暮らせる穏やかな町、これが飯綱町らしさで、女性が住みたくなる町ではないでしょうか。このようなまちづくりを目指すことを提案します。どのように捉えていますか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） おっしゃるとおりです。そのように頑張っていきたいと思います。以上です。

○議長（清水満） 目須田議員、ご苦労さまでした。

暫時休憩に入りたいと思います。再開は14時10分をお願いします。